

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

高校山岳部での安全対策――長野県の場合 その3

なお、本校が位置する長野県中信地区⁵⁾には、地区の校長会が主宰する「安全登山研究会」という組織がある。これは、1954（昭和29）年12月29日に起きた松本県ヶ丘高校山岳部の穂高岳岳沢での雪崩事故を契機に、二度とこのような悲惨な事故をおこしてはならないと、翌1955（昭和30）年、中信校長会長が山岳遭難防止を主とする委員会の設立を提唱し、「中信高校安全教育研究会」としてその実現をみたものである。現在では「中信安全登山研究会」と呼び慣わされているものであるが、創設以来60年間にわたって、夏・冬の検討会を定期的に開催し、高校山岳部や学校登山⁶⁾の検討をしてきた。その後、高体連登山部の設立後は、両方でタイアップしながら安全登山に寄与してきている。この研究会による計画書の検討は絶対条件（承認条件）となっているわけではないが、計画書を第三者である他校の顧問の目で見ってもらうことは、安全性に対する客観性が担保されるという面で一定の効果があると思われる。こうして立案した計画は、学校長の承認の上、家庭にも届ける。なお、「中信安全登山研究会」では現在、顧問が毎年、課題を設定して自主研修（10月もしくは11月）も実施している。

④日常のクラブ活動の充実による登山への適応力の錬成

生徒自身の山への技術や体力の錬成もまた重要である。山岳部は文字通り「山へ行っ
てこそその世界」ではあるが、かなりの頻度で山に行っている本校とて、実際に山行して
いる日数は、50日に満たない。山岳部は運動クラブの範疇に位置付けられている⁷⁾もの
の、大会での好成績を目指して毎日トレーニングに励む通常の運動クラブとはやや性格
を異にしている。

だからこそ、日常のトレーニングなど下界にいるときにクラブ活動として何を行うか
は、そのクラブのあり方そのものを現していると言ってもいいだろう。動機づけは難し
いが、私は日常のクラブ活動の充実が、安全登山のための第一歩であると考え、先に述べた
週一回のミーティングにおける計画書作りをメインに一週間のメニューを決めて活動を
している。

具体的には月曜日は天気図をはじめとする机上学習、火曜日はミーティング、水曜日は
自主練習、木曜日はクライミング、金曜日は体力錬成と合宿準備、土曜日は体力錬成
として、そこに土日や連休を使って最低月一回の山行や外岩でのクライミングなどを組
み込むというのがその中身である。こうして、生徒自身の登山に対する体力、技術力を
高め、安全登山ができる体制を整えていく。

しかしながら、学校では生徒も教師も多忙である。行事や生徒会活動、職員会など様々
なことが原因でことほど左様にうまく機能しない。そんな中では、このような原則を決
めてクラブ員が常に顔を合わせている場面をお膳立てしておくことは、勢い山に行か
ない時はただなんとなく過ごしてしまいがちな生徒に対しては、有効だと考える。

IV. おわりに

今年度、入部した当初、「私は山にはあまり興味がないけれど、クライミングをやってみたく

て入部した。」という女生徒がいた。彼女は、歓迎合宿の時、「テントとシュラフでは一睡もできなかつた。どうすれば眠れるようになれるのですか？」と訴え、県大会の錬成では「こんなに辛いと思わなかつた。山の楽しさってなんですか？」と僕に尋ねてきた。しかし、夏合宿を経験した後、「仲間のすばらしさと山のすばらしさに感動した。」と涙を流して語り、12月の焚き火ビンバーク体験では、寒さに震えながらも「ぐっすり寝られたし、今までのクラブ活動で一番楽しかった。山ってホントにいい。冬山合宿が楽しみ。」と言うまでになった。もちろん彼女はクライミングにもものめり込み、すでに僕よりも上手い。家族もそんな彼女を応援してくれていると言う。これはほんの一例であるが、本校山岳部の生徒は多かれ少なかれみんなこれと同じような体験をしているのではないだろうか。自分のことを家族からも理解され、段階を追ってステップアップしていく喜び。そして、文字通り同じ釜の飯を食べ、苦楽をともにした仲間との友情の醸成。

高校山岳部の指導において、私が一番大事にしているのは「安全登山を基本にした楽しい登山」である。ただ、楽しい登山の前にはそれなりにやる必要がある。高校山岳部の場合にはそれがまずは高校生活そのものであり、その次に安全登山であるということだ。それは言うまでもなく、「自立した登山者」の育成ということと同意である。生徒たちには、高校卒業後も楽しみながら山を続けてほしいと願っているが、自分で考え判断できる力をもってこそそれが可能になる。

結局のところ、原則を外さないという原則が安全登山を保障し、山のすばらしさや楽しさを伝えてくれるのではないだろうか。

ここに述べてきたことは、すべて当たり前のことばかりであり、特筆するようなものは何もない。しかし、唯一私が人より少しだけ誇れることは、長野県の方言で「ズクを惜しまない」ということかもしれない。これは「億劫がったり、手間を惜しんだりしないこと」をいうことばだが、山岳部の指導にあつてはこれが実は一番大切なかもしれない。一手間を惜しまなければ、あとは、「山」が「自然」が生徒を導いてくれるのだ。そのお膳立ての部分をするのが顧問の役目なのだろう。ただ、そのお膳立てには細心の注意を払い、万全を期さねばならない。

1) 登山研修VOL30参照

- 2) 高体連の大会では、安全登山に関する技術（体力、歩行技術、装備、設営・撤収、炊事、気象、自然・観察、計画・記録、救急、マナー・パーティシップ・自然保護）が総合的に審査される。
- 3) 都道府県によっては、都道府県教委の許可が必要な場合もあるということであるが、長野の場合は、基本的に学校長の許可により行っている。
- 4) 本来、指導の未熟な顧問をサポートするための制度であるが、山という場所の特殊性、ロープワークの際の複数の熟達者が必要な点等を配慮し、高校山岳部顧問OBを申請し、県に認めてもらっている。
- 5) 長野県は長野・飯山・須坂などの「北信」、上田・佐久などの「東信」、諏訪・伊那・飯田などの「南信」と大町・松本・木曾などの「中信」の4地区に分かれており、大町高校は「中信地区」に含まれている。
- 6) 長野県では学校行事として、学校または学年単位での集団登山が行われてきた。その数は減少してきているが、中信地区では数校が現在でも実施している。
- 7) 山岳部の運動系クラブということについては、高等学校体育連盟の中に登山専門部が設けられており、インターハイが行われていることも明らかではあるが、登山は競うものではないという議論もある。また、登山そのものが本来もつ文化的側面を重視し、高等学校の文化祭の中などでは、文化系クラブと同様に展示発表をするなど、単なる運動系クラブの範疇に収まり切らないのもまた事実である。

2015年度大町高校山岳部の1年間の山行（3月は予定）

	期日	山域（内容）・・・太字はメインの活動
第1 タ 一 ム	4月25日-26日	鍬ノ峰（新人歓迎焼肉とテント泊体験・日帰り登山）
	5月 9日-10日	針ノ木雪渓（長野県山岳総合センター高校生研修会）
	5月16日-17日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会下見①）
	5月30日-31日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会下見②）
	6月 4日- 6日	烏帽子岳・湯ノ丸山（高体連県大会）
第2 タ 一 ム	6月19日-21日	蝶ヶ岳（高体連北信越大会）
	6月21日	クライミング（県大会兼国体予選）
	7月11日	鍬ノ峰（整備登山・日帰り）
	7月18日-19日	赤岩尾根～鹿島槍～種池～扇沢（夏山準備合宿）
	8月13日-16日	針ノ木～黒部谷～五色ヶ原～空堂～雷鳥沢～真砂～立山～黒部谷（夏山合宿）
第3 タ 一 ム	9月 5日	白水谷（沢登り）
	9月 6日	クライミング（長野県山岳総合センター高校生研修会）
	9月18日-19日	馬羅尾高原・雨引山（高体連新人大会）
	9月20日-21日	七倉～船窪～烏帽子～ブナたて尾根（秋山縦走①）
	10月10日-12日	八方尾根～唐松～五龍～鹿島槍～爺ヶ岳～扇沢（秋山縦走②）
	10月16日-17日	研修合宿・鍬ノ峰（中信地区安全登山技術研修交流会）
	10月18日	外岩マルチピッチクライミング（小川山）
	11月14日-15日	美ヶ原（次年度県大会下見）
	11月16日	全国選抜クライミング選手権長野県予選
第4 タ 一 ム	12月 5日-6日	馬羅尾高原・雨引山（冬山準備とビバーク体験）
	1月 4日	乗鞍岳善五郎滝（アイスクライミング）
	1月 5日	鉢伏山（雪上日帰りハイキング）
	1月30日-2月1日	八方尾根スキー場上部八方尾根（雪上訓練・雪上テント泊）
	2月14日	五竜岳遠見尾根（イグルーブくり体験・日帰り）
	3月 5日	樽池白馬乗鞍岳（山スキー・日帰り）
	3月26日-27日	乗鞍岳（山スキー合宿・雪上歩行・雪河もしくはイグルー泊）